

## 施策評価票

### 第2 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち

#### 1 商工業の振興による地域経済の活性化

- ◎中小企業等の支援と創業支援による地域経済の活性化
- ◎中心市街地の活性化
- 企業誘致の推進
- 既存企業の育成と振興

#### 2 地域の特性を生かした農林水産業の振興

- ◎生産と販売の促進
- 農地施策の推進
- ◎豊かで多様な森林の育成と地域林業の活性化

#### 3 観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進

- ◎“welcome おおまち”魅力ある観光地づくりの推進
- ◎地域の芸術文化の創造

#### 4 移住・定住促進策等の充実強化

- ◎定住促進ビジョンの推進
- ◎過疎地域における移住・定住促進
- ◎都市との交流の促進
- ◎信濃大町ブランドの戦略的な展開

## ◆1 商工業の振興による地域経済の活性化◆

地域経済の活性化策の一つとして、雇用を伴う設備投資への支援を推進するとともに、既存企業の一層の育成を図ります。また、企業の設備投資の動きを迅速に把握し、豊富な地下水や恵まれた自然環境など、市の特性を最大限に生かすことのできる企業の誘致を積極的に推進します。

中小企業の経営基盤の強化を支援し商工業の振興を図るとともに、全庁的な推進体制により創業希望者・創業者の支援・育成や企業の誘致、地域内産業の相互連携を進め、地域経済の活性化と雇用の場の確保を図ります。特に中心市街地の商店街では、平成26年現在84店の小売店が営業していますが、年々減少しており、後継者も不足していることから、移住希望者や創業希望者を含めた創業者や後継者を育成します。

【中小企業等の支援と創業支援による地域経済の活性化】 進捗状況：A・・・順調／B・・・おおむね順調／C・・・やや遅れている／D・・・遅れている／E・・・未実施

具体的な施策	内 容	担当課	取り組みの状況・課題等	進捗状況
◎中小企業の育成と商工団体等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県・市制度資金の活用による、中小企業の新たな設備投資や事業の拡大、新規分野への事業展開への支援</li> <li>・中小企業の経営基盤の安定化、競争力の強化による、地域経済の活性化</li> <li>・後継者対策に関する支援や関係機関の連携の充実</li> <li>・商工団体等の活動の支援</li> </ul>	商工労政課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度融資資金の拡充による経営の安定化と支援に努めている。</li> <li>・経済情勢に応じた制度融資資金の拡充をはじめ、市内事業者の経営実態や金融市場等、状況把握に向けた体制整備が必要である。</li> </ul>	B
◎創業希望者・創業者の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創業支援協議会の創業塾・セミナーの開催による、市内外の住民やI・Uターン者等の創業希望者の掘り起しと育成</li> <li>・人材育成を図るため、商業をはじめとする広範な分野の新規創業の積極的な支援</li> </ul>	商工労政課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市創業支援協議会の創業セミナー・塾等による創業者の掘り起こし、コワーキングスペース運営、テレワーク事業導入による多様な労働環境の整備等、一定の支援体制が整備できた。</li> </ul>	B
◎企業説明会・就職面接会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新卒者、I・Uターン者への企業情報の提供や就職支援、高校生のキャリア教育、就職支援としての企業説明会や就職面接会の開催</li> </ul>	商工労政課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関連携の下、大北地域企業説明会を開催、就職支援に努めている。専門事業者（マイナビ）による情報発信を行った。今後、開催時期・内容の見直しを検討していく。</li> </ul>	B

<p>◎既存企業の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県・市制度資金の活用による、既存企業の新たな設備投資や事業の拡大、新規分野への事業展開への支援</li> <li>・既存企業の経営基盤の安定化や競争力の強化による地域経済の活性化</li> <li>・後継者対策に関する支援や関係機関の連携の充実</li> <li>・企業活動の活性化促進策としての、ビジネスや短期滞在者向けの宿泊施設の整備等に対する支援の検討</li> </ul>	<p>商工労政課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市制度融資資金の拡充による資金繰り支援、各種助成制度の周知啓発を強化した。今後は、事業者の実態把握に向け、関係機関との連携体制の整備を検討していく。</li> </ul>	<p>B</p>
-----------------	--	--------------	---	----------

【中心市街地の活性化】

進捗状況：A・・・順調／B・・・おおむね順調／C・・・やや遅れている／D・・・遅れている／E・・・未実施

具体的な施策	内 容	担当課	取り組みの状況・課題等	進捗状況
<p>◎活性化に向けた支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3次中心市街地活性化基本計画に位置付けられた各種事業の積極的な推進</li> <li>・商店街が創意工夫し自主的に取り組む消費者交流事業や大町まちづくり協議会等の団体が取り組む自主的な事業への支援</li> <li>・市民のほか周辺地域の住民、観光客等の市外から訪れる人の市街地への積極的な誘導</li> <li>・空き店舗を活用して行う改修補助、家賃補助による中心市街地機能の維持・向上</li> <li>・チャレンジショップ事業、がんばる元気な商店支援事業等による、やる気のある創業者や商店への積極的な支援</li> </ul>	<p>商工労政課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体等と連携し、第3次中心市街地活性化基本計画の施策・事業を推進するとともに、第4次基本計画策定に向け策定委員会を設置し、これまでの検証結果等を踏まえ、新たな計画を策定した。</li> <li>また、中心市街地振興条例による集客施設の立地が進み、市街地内の回遊性が向上した。今後は、補助制度の有効活用に向けた周知啓発を図るとともに、新たな基本計画の実行に向け、主体となる人材育成に取り組む。</li> </ul>	<p>B</p>
<p>中心市街地における施設整備の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地への人の誘導化策を踏まえた施設整備の推進</li> <li>・市街地緑化の推進</li> </ul>	<p>建設課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化フェアを契機に、市民の緑化意識の高揚や市街地緑化の推進及び、市街地への誘客効果などを踏まえ、駅前交通広場や駅前広場公園、また、中心市街地に近いポケットパークに花壇を整備した。民間主体による、植栽の継続した維持管理施策を進める。</li> </ul>	<p>A</p>

		商工労政課	・ 中心市街地振興条例による集客施設の立地を促進し、都市機能の向上を図る。	C
市営住宅団地等の新設	・ 中心市街地への市営住宅団地等の整備によるコンパクトな市街地の形成と地域経済の活性化	建設課	・ 住宅整備に関係する課で構成する新設団地用地選定庁内検討委員会を組織し、建設候補地の抽出をしているが、用地選定、決定に至っていない。	C
		商工労政課	・ 中心市街地活性化基本計画に基づく区域内の用地選定、コンパクトシティー化に向けた調整・検討を行う。	C

【企業誘致の推進】

進捗状況：A・・・順調／B・・・おおむね順調／C・・・やや遅れている／D・・・遅れている／E・・・未実施

具体的な施策	内 容	担当課	取り組みの状況・課題等	進捗状況
地域の特性を活かした戦略的な企業誘致の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全庁を挙げての推進体制の構築</li> <li>・ 効果的な企業誘致の戦略的な展開</li> <li>・ 豊富な地下水や恵まれた自然環境、農業や観光業と連携した事業展開など、地域特性を生かした企業誘致の推進</li> <li>・ 工場等誘致振興条例に基づく企業への支援</li> <li>・ 地域産業活性化懇話会による企業情報の共有化</li> </ul>	産業立地戦略室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業立地戦略本部による企業誘致をワンストップでサポート。</li> <li>・ 東洋紡跡地やカスタムオーダーの誘致を推進。</li> <li>・ 当市の地域特性を活かした誘致活動の推進。</li> </ul>	B

【既存企業の育成と振興】

進捗状況：A・・・順調／B・・・おおむね順調／C・・・やや遅れている／D・・・遅れている／E・・・未実施

具体的な施策	内 容	担当課	取り組みの状況・課題等	進捗状況
既存企業の育成と振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業訪問等による情報収集と課題解決への支援</li> <li>・ 雇用を伴う設備投資等への支援</li> <li>・ 経営安定化への融資や利子補給等の支援</li> </ul>	産業立地戦略室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製造業等景況調査の実施。</li> <li>・ 工場等誘致振興条例に基づく助成 固定資産税相当額 2社</li> </ul>	B

	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業による市の特産品等の商品開発への支援</li> </ul>	<p>商工労政課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内事業者の実態把握に向け、関係機関と連携した体制を整備するとともに、緊急経済対策として制度融資資金を拡充、経営を支援するため利子補給を実施した。</li> </ul>	<p>B</p>
<p>農業・商業・観光業の連携による地域内流通の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域固有の農産物の掘り起しからブランド化、販路開拓までのビジネス展開に対する、農業者・商業者・産業支援機関等との連携・協働による支援</li> </ul>	<p>商工労政課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>姉妹都市立川市アンテナショップ等における物販活動を通じ、いーずら大町特産館のみならず、意欲ある事業者に新たに創設したえんぽーター制度に登録いただき、販売を通じ消費者の反応を直接肌で感じることで、生産品や商品のブラッシュアップに向けた取組み等、意識向上が図られた。</li> <li>特産品開発セミナーを開催し、大町に来た人が「買いたい、食べたい、また大町に来たい」と思う商品開発を推進。(2/11 アメ市で、「信濃大町をおもてなしマルシェ」開催、テストマーケティングを実施)</li> <li>信濃大町食材プロモーション事業として、食の情報誌「料理王国」との企画により、地域食材の魅力を発信。その後の販路拡大にも効果を得る。</li> </ul>	<p>B</p>
		<p>農林水産課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大町温泉郷の宿泊施設での地元産農産物の利用を進めている。出荷量、品目、時期、価格等のマッチングに課題あり。</li> </ul>	<p>D</p>
		<p>観光課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長野県北アルプス地域振興局が事務局を持つ「北アルプス山麓育ち in 首都圏実行委員会」にて、銀座 NAGANO 等において農業観光一帯となった地域ブランド</li> </ul>	<p>B</p>

			PRを実施。また、観光キャンペーンでは特産品や農産物の販売も同時に展開するなど、担当課が独自に展開することに加え、相互に連携することを念頭に置いて取り組んでいる。
--	--	--	---

◆数値目標◆

目 標 項 目	基準値	目標値 (令和3年度)	担当課	R1 数値	課題等
制度資金利用件数	15 件	35 件	商工労政課	39 件	緊急経済対策により内容拡充
空き店舗活用件数（5年累計）	2 件	15 件	商工労政課	5 件	店舗情報の一元化が必要
創業者数（5年累計）	—	15 人	商工労政課	11 人	コワーキングスペースの有効活用に向けた取り組みが必要
中心市街地の通行量	平日 1900 人 休日 1200 人	平日 2600 人 休日 1700 人	商工労政課	平日 848 人 休日 539 人	調査時の状況（天候・イベント等）により数値変動
企業誘致件数（5年累計）	1 社	3 社	産業立地戦略室	1 社	H29～R1 実績数値
助成対象企業数（増設・移設）	1 社	1 社	産業立地戦略室	0 社	R1 年度交付決定事業 2 社
特産品となる新たな商品取扱企業数（5年累計）	—	5 社	商工労政課	3 社 (累計 14 社)	ばいはるちゃにみとろ、自家焙煎珈琲屋 UNITE、塩の道ちょうじや（H28）※特産品開発コンテスト入賞者 NPO 法人がんばりやさん、喜久龍、猫の耳、手造り食品蛸、信濃おやき幸庵、健菜樂食 Zen（H29）※特産品開発コンテスト入賞者 レストランくんくん、喜久龍、農園カフェラビット、健菜樂食 Zen（H30）※特産品課発セミナー参加者 健菜樂食 Zen、喜久龍、農園カフェラビッ

第2 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち

様式第1号

					ト、青空フーズ、美麻オリザファーム、ファイブスター（R1）※特産品課発セミナー参加者
市内農業者・商業者等と観光業者とのマッチング件数（5年累計）	—	10件	商工労政課・観光課 農林水産課	1件 （累計10件）	販路開拓という面で、首都圏で行う物販事業等に出展している事業者 H29（峯村農園、石原りんご園、久保屋、自家焙煎珈琲屋 UNITE、健菜樂食 Zen、信濃おやしき幸庵） H30（信濃大町のつけものや、ねまるちゃテラス） R1（小澤製麺） 温泉郷を中心とした地元農産物の利用拡大を促進するために関係機関と引き続き調整を進める必要がある。

□市民意識調査□

調査項目	基準値	目標値
商工業の振興に満足していると思う市民の割合	33.5%	50%
中心市街地の活性化に満足していると思う市民の割合	24.1%	50%
働く場や雇用機会が充実していると思う市民の割合	20.7%	50%
既存企業の育成、企業誘致等産業の活性化施策に満足していると思う市民の割合	25.4%	50%

○関連する個別計画

大町市中心市街地活性化基本計画、大町市企業誘致戦略、信濃大町ブランド戦略

◇施策に係る対象事業

実施計画名	事務事業No.	事業名（予算書）	担当課
創業支援事業	15114	創業支援事業	商工労政課

第2 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち

様式第1号

中小企業支援事業	17114	中小企業支援事業	商工労政課
中小企業融資事業	17114	中小企業支援事業	商工労政課
ブランド振興事業	17115	ブランド振興事業	商工労政課
アンテナショップ運営事業	17115	ブランド振興事業	商工労政課
中心市街地活性化事業	17117	中心市街地活性化事業	商工労政課
工業振興・企業誘致事業	17122	工業振興・企業誘致事業	産業立地戦略室
工場等誘致振興助成事業	17123	工場等誘致振興助成事業	産業立地戦略室

※実施計画に該当しない事務事業についても、本施策に該当していれば記入してください。（その場合、実施計画名欄は空欄とし、事務事業No.及び事業名（予算書）欄へ記入してください。）



## ◆2 地域の特性を生かした農林水産業の振興◆

農業者の高齢化等による担い手不足や安定した農業経営の維持・確立が課題となっていることから、認定農業者や集落営農組織を育成し地域の担い手づくりを進めることにより、農地集約化の促進や農業経営の安定化と生産体制の強化を図ります。

また、新規就農者や環境保全型農業に取り組む農業者への支援を推進するとともに、鳥獣被害対策や遊休荒廃農地の有効利用等に積極的に取り組みます。

水産業では、水産資源を確保し販路拡大を進めます。また、林業では、健全な森林の維持と、多面的・公益的な機能の保持のため、適切で計画的な森林の育成整備と管理を進める必要があります。間伐や林産物の生産促進など、林業の経営安定や後継者の確保に努めるとともに、木質系エネルギーの活用等を促進し、地域材の利用拡大を図ります。

## 【生産と販売の促進】

進捗状況：A・・・順調／B・・・おおむね順調／C・・・やや遅れている／D・・・遅れている／E・・・未実施

具体的な施策	内 容	担当課	取り組みの状況・課題等	進捗状況
◎農業後継者の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成、新規就農者の支援</li> <li>・高齢農業者の持つ技術や能力を活用し、農家と連携した農業研修などによる支援</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農者に対して、国の制度を活用しながら資金面、技術面等において積極的にサポートしているが、農家子弟でない場合、耕作地の確保等が難しい場合もある。</li> </ul>	B
◎持続可能な農業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落における地域農業者との懇談</li> <li>・地域における中核的農業者への指導、育成</li> <li>・集落や地域全体での農業経営体の組織化支援</li> <li>・作業受託態勢強化への支援</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営農懇談会等で地域農業者との懇談を行い、農業施策の説明と要望等の確認を行っている。</li> <li>・中核的農業者の育成を進めているが、高齢化と後継者不足が課題である。集落営農組織の活動も展開されているが、リーダーの高齢化と後継者不足が課題である。</li> <li>・認定農業者等の担い手による農作業の受託により地域の農地の維持保全がなされている。また、受託作業の補助制度も活用されている。</li> </ul>	B

◎農業法人化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業法人化へ向けた推進態勢の整備</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及センター等と協力して相談等を行うなど推進態勢は整備されてきているが、法人化を目指す担い手が少なく、具体的な進展はない。</li> </ul>	D
稲作の生産振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>優良品種の導入、技術改善の促進</li> <li>生産性、品質向上による生産向上対策の推進</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産に繋がれるように、農技連の試験圃場で品種ごとの栽培試験を行っている。意欲ある生産者は、利用権等の設定により農地を集約して効率的な利用を進め、コスト削減や品質の安定化を図ることにより、収益確保の取り組みを進めている。</li> </ul>	B
果樹・野菜・花卉の生産振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>りんごオリジナル品種、新しい化等の栽培促進</li> <li>ワイン用ぶどうの生産振興への支援</li> <li>消費者ニーズに即した優良品種や業務用野菜等の導入拡大、野菜や花卉栽培の技術向上への支援</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>苗木等の補助を行い、りんごやワイン用ブドウ等の栽培促進支援を行っている。JA大北では園芸推進重点品目を選定し、生産の振興を図っているが、収益が上がっても費用がかかるものや、作業が大変なものは敬遠されることから、一定量は栽培されても、産地化には至っていない。</li> </ul>	B
転作作物の生産振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>米+αによる付加価値の高い転作作物の振興</li> <li>麦、大豆、そばや園芸品種などへの転作の促進</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営所得安定対策の活用により、麦、大豆、そばの土地利用型作物や園芸品目の生産振興に努めており、個別の取り組みは進んでいる。しかし、土地利用作物以外の園芸品目の産地化までには至っていない。</li> </ul>	C
◎地産地消や高付加価値型農業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食等への地元農産物の活用の促進</li> <li>観光や商業と連携した農産物の振興</li> <li>果実などの加工や販路拡大の推進</li> <li>特色ある農業を行う経営者の育成</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>JA大北の協力により、学校給食における地元農産物の活用を進めている。</li> <li>立川市での農産物の継続的な販売や特売を行っている。</li> </ul>	C

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工業、観光業との連携による6次産業化の推進</li> <li>・有機農業等の取組みへの支援による環境負荷軽減の促進</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工労政課と連携し、輸出に取組みたい事業者等を対象に輸出事業を促進しており、農産物等の輸出セミナー及び意見交換会を通じて、香港への米の輸出を行った。</li> </ul>	
		観光課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「北アルプス山麓育ち in 首都圏実行委員会」にて、銀座 NAGANO 等において農業観光一帯となった地域ブランド PR を実施。また、国営アルプスあづみの公園 大町・松川地区で開催される「北アルプスフェア」にて地元農産物の紹介を兼ねた物産店を出店している。</li> </ul>	B
		商工労政課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特産品開発セミナーを開催し、大町に来た人が「買いたい、食べたい、また大町に来たい」と思う商品開発を推進。</li> </ul>	B
		学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校に地産地消の補助金を交付し、「大町を味わう日」を設けるなど、地元農産物の活用に努めている</li> </ul>	B
◎鳥獣被害対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サル追い払い協力員等による地域ぐるみの追い払い対策の実施</li> <li>・猟友会員の育成と確保の支援</li> <li>・侵入防止柵の設置、緩衝帯の整備等による対策の強化</li> <li>・県特定鳥獣保護管理計画等に基づく個体数調整の促進</li> <li>・捕獲した有害鳥獣の有効活用</li> <li>・モンキードッグの育成支援</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・猟友会による個体数調整、猿追い払い協力員及びモンキードッグによる追い払い、国の交付金及び市単独補助事業による侵入防止柵の設置をすすめている。農業被害額は減少傾向にあるが、依然として猿、猪等の被害報告がある。被害額の減少とともに、鳥獣被害による離農が進んでいる可能性があるため、さらに対策を強化していく必要があり、令和2年度から会計年度任用職員を1名増員し、猟友会との連携をさらに強化し、サルの個</li> </ul>	C

			体数調整に取り組むとともに、効果的に駆除及び追払いを実施するためGPSや大型捕獲檻の導入を予定している。	
畜産の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産農家の地域に根差した連携と飼育環境改善への支援</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元自治会等との懇談会や現地見学会を開催し、飼育への理解を深め、相互理解の促進を図っている。</li> </ul>	B
在来魚種の保護と特産魚等水産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>漁業協同組合との連携によるイワナ、ワカサギ等のふ化・放流や情報発信</li> <li>観光業等と連携した特産品のPR、販路拡大や釣り場、釣り客増加の促進</li> <li>漁業協同組合との連携による外来魚の駆除対策の推進</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内3漁業協同組合の事業へ補助を行い、水産業の振興と外来魚駆除を促進している。</li> <li>市漁連と協力して「淡水魚の日」を開催し、仁科三湖等の淡水魚のPR、消費拡大を図っている。</li> <li>ブラックバス釣り大会への補助を行い、外来魚駆除を促進している。</li> </ul>	B

【農地施策の推進】

進捗状況：A・・・順調／B・・・おおむね順調／C・・・やや遅れている／D・・・遅れている／E・・・未実施

具体的な施策	内 容	担当課	取り組みの状況・課題等	進捗状況
「人・農地プラン」の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人・農地プラン」の作成による地域の担い手と農地の課題解決と地域活性化に向けた事業の推進</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>人、農地プランの作成による持続可能な農業のあり方を検討しているが、高齢化等様々な理由から、中心となる担い手が位置づけられていない地域ではプランの作成が進んでいない。</li> </ul>	B
農地集約化の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>農地中間管理機構を通じた農地の集約化</li> <li>農地流動化の促進</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>農地中間管理事業の実施により担い手等へ農地の集約が進んでいるが、出し手と借り手のマッチングが困難な条件の悪い農地の取扱いが課題となっている。短期間の農地賃借等農業経営基盤強化促進法による利用権設定も併用していく。</li> </ul>	B
農地・農業用施設の維持・機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊休農地等の利活用の促進</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊休農地対策については、地域コミュニテ</li> </ul>	B

<p>保全等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多面的・中山間・環境直払など、日本型直接支払事業の推進</li> </ul>		<p>ィ組織の活動に対し支援を実施。日本型農業直接支払事業については、各地域において組織を立ち上げ共同活動を実施しているが、現状を維持するのが精一杯の組織もあり、今後の遊休農地の増大等に対応できるかが課題である。</p>	
<p>農地・施設の機能保全及び基盤整備事業の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基幹的農業水利施設の長寿命化対策に基づく更新整備</li> <li>農業用ため池の耐震化の推進</li> <li>老朽化した農業用水路網の効率的な維持保全</li> <li>農地の区画整理や農道、暗渠排水等と併せたほ場整備等への支援</li> </ul>	<p>建設課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業用ため池については、防災重点ため池を対象に耐震調査業務を行い、現在、2ため池において、県営事業により耐震化事業を実施している。</li> <li>老朽化した農業用水路等の農業用施設については、機能診断を行い、個別施設計画を作成し、市の単独事業、多面的機能保全交付金事業や補助金事業を活用しながら効率的に実施をする。</li> <li>農地再編に伴う農業基盤整備事業については、地域の実情にあった受益者の負担が少ない事業などを検討しながら事業を進めている。</li> </ul>	<p>B</p>

【豊かで多様な森林の育成と地域林業の活性化】

進捗状況：A・・・順調／B・・・おおむね順調／C・・・やや遅れている／D・・・遅れている／E・・・未実施

<p>具体的な施策</p>	<p>内 容</p>	<p>担当課</p>	<p>取り組みの状況・課題等</p>	<p>進捗状況</p>
<p>◎林業の担い手の確保・育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規就業者等後継者の確保と指導者の育成</li> <li>林業技術の講習会などの普及活動への支援</li> </ul>	<p>農林水産課</p>	<p>・林業の担い手については不足している状況であるため、林業事業者、定住促進係等と連携を図り、担い手の確保に取り組む。</p>	<p>C</p>

◎みどり教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林の持つ役割、森林を守り育てることを学ぶ、みどり教育の推進による郷土愛の育成</li> <li>みどりの少年団の育成や活動への支援</li> <li>植樹祭、育樹祭等の参加体験による森林とのふれあいの促進</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑の少年団に大北植樹祭へ参加いただいた。1歳6カ月検診時に積み木をプレゼントし、木育として木に触れていただく機会を増やしている。</li> </ul>	B
健全な森林の育成・整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に適した健全な森林の育成</li> <li>間伐等適正な森林施業への支援</li> <li>地域でまとまりのある森林整備の推進</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>健全な森林の育成のために必要な間伐事業に対して、国、県の補助金に対し5%の嵩上げ補助を実施している。また、昨年3月に常盤地区の市有林について、県を立会人としてサントリーホールディングス(株)と「サントリー天然水の森 北アルプス」の森づくり活動に関する森林の里親協定を締結し、森林整備活動に協働して取り組むこととした。</li> <li>また、今後は、令和元年度から始まった新たな森林経営管理制度に基づき森林整備を推進していく。</li> </ul>	B
森林資源の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>松くい虫やナラ枯れ等森林病害被害の監視強化と伐倒燻蒸処理、薬剤樹幹注入等被害対策の推進</li> <li>樹種転換等の推進</li> <li>忌避剤等による幼齢木の食害防止</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害確認木の伐倒くん蒸処理及び空中散布等を行い、全量駆除を目指しているが、被害木は毎年発生している状況にある。多くの森林を有する当市において、松くい虫被害の対策を実施することは、森林自体の保護のほか当地域の財産である北アルプスと緑の森林の景観を守ることにもつながっている。</li> </ul>	D
経営基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>林道等の整備の推進</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>林業事業者により、森林整備に合わせ、県の補助事業等を活用し整備を促進する。</li> </ul>	B
地域材の利用拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域材の公共施設や住宅への利活用の促進</li> <li>地域資材の流通、加工施設等広域的整備の検討</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>薪ストーブの購入に際し、10万円を限度に助成制度を設け、木質バイオマスの利</li> </ul>	B

	<ul style="list-style-type: none"> <li>木質系バイオマスエネルギーの利用拡大の推進</li> <li>間伐材等地域材の利活用の推進</li> </ul>		用拡大を推進しているが、地域材の流通及び間伐材の利活用の推進については、コスト等の課題があり、実施までに至っていない。	
林産物の生産促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>林床部を活用した特用林産物の生産振興の検討</li> </ul>	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>林床部を活用した陸ワサビは需要があり販路も確保されているが、栽培面積の拡大及び普及が進んでいない。</li> </ul>	C

◆数値目標◆

目標項目	基準値	目標値 (令和3年度)	担当課	R1 数値	課題等
認定農業者数	85人	80人	農林水産課	88人	認定農業者も高齢化が進んでいることから、後継者の育成が課題となる。
新規農業者数（5年累計）	4人	10人	農林水産課	11人	現在目標値は達成しているが、安定的な農業経営を図るためには、更なる就農希望者の発掘が必要である。
有害鳥獣による農業被害額	10,354千円	8,000千円	農林水産課	7,709千円	農作物被害額は減少傾向である一方、対策が十分でない地域については、出没情報が増加している傾向にある。
人・農地プラン作成・更新地域数 (5年累計)	9地域	15地域	農林水産課	10地域	プラン未作成地域においては、営農懇談会等でプラン作成を働きかける。
協働による遊休荒廃地等の整備面積	5.7ha	8ha	農林水産課	1.8ha	鳥獣害の多い農地が荒廃化する傾向があるため、関係各所と連携した対策を講ずる必要がある。
ため池の耐震化対策	3池	2池	建設課	2池	順次耐震対策工事実施中
集落営農組織数	21団体	19団体	農林水産課	15団体	地域の生産活動の維持と農地の有効活用、保全に重要な役割を果たしているが、新規の組織化

					や既存団体の法人化の動きはほとんどなく、リーダーや農作業従事者の高齢化と後継者不足により組織の維持が難しくなっている団体もある。 経営所得安定対策等の補助事業による支援を継続し、生産活動の維持を図っていきたい。
林業従事者数	26人	28人	農林水産課	73人	今後の当市の森林整備を担っていく人材をさらに確保していく必要がある。
間伐実施面積	44.25ha	120ha	農林水産課	29.22ha	林業事業体等の担い手の確保とともに、新たな森林経営管理法に基づく森林整備を今後さらに促進する必要がある。

## 目標実現の条件

- ・青年就農給付金の継続

## □市民意識調査□

調査項目	基準値	目標値
農林水産業の振興に満足していると思う市民の割合	45.8%	60%
間伐等適正な森林施策が推進されていると思う市民の割合	12.5%	50%
農地、林地の環境保全推進対策に満足していると思う市民の割合	43.8%	60%

## ○関連する個別計画

農業振興地域整備計画、大町市農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画、大町市森林整備計画

## ◇施策に係る対象事業

実施計画名	事務事業No.	事業名（予算書）	担当課
ブランド振興事業	17115	ブランド振興事業	商工労政課
農業次世代人材投資事業	16132	農業振興事業	農林水産課
環境保全型農業直接支払補助金	16132	農業振興事業	農林水産課



## 第2 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち

様式第1号

農地流動化担い手育成奨励金	16133	農業経営基盤強化推進事業	農林水産課
中山間地域等直接支払事業	16136	中山間地域等直接支払事業	農林水産課
多面的機能支払事業	16137	多面的機能支払事業	農林水産課
有害鳥獣対策事業	161311	有害鳥獣対策事業	農林水産課
市有林整備事業	16313	市有林管理育成事業	農林水産課
森林整備地域活動支援事業	16315	森林整備地域活動助成事業	農林水産課
松林健全化推進事業	16316	松林健全化推進事業	農林水産課
間伐推進事業	16312	林業振興一般経費	農林水産課
森林環境譲与税事業	163112	森林環境譲与税事業	農林水産課
県営農業農村整備事業等負担金	16213	農業用施設管理事業	建設課

※実施計画に該当しない事務事業についても、本施策に該当していれば記入してください。（その場合、実施計画名欄は空欄とし、事務事業No.及び事業名（予算書）欄へ記入してください。）

◆3 観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進◆

本市は、北アルプスの山々をはじめ魅力ある観光資源を数多く有しており、これらの資源の魅力向上や、新たな資源の発掘を図り、観光振興の豊富な経験と実績を持つ有識者を活用して外貨を獲得し地域でお金が回る仕組みを構築するとともに、観光の質の向上を推進します。

白馬村、小谷村との連携によるDMO（観光業を強化する連携体制）の組織化を図り、DMOの持つ機能を最大限に活用し、滞在型観光地づくりを進めます。

また、国内外からアーティストを招へいし、地域資源を活用した芸術創作活動を支援するアーティスト・イン・レジデンス事業を積極的に展開し、市固有の魅力をアートを通じて発信し、国内外から新たな観光客層の誘客を図ります。

さらに、市民が観光を通じて市の魅力を再認識し、訪れた観光客との交流を促進するため、市民のおもてなしの心を醸成し、観光客に感動を与えリピーターの獲得を基軸とする観光振興により豊かな地域づくりを目指します。

【“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進】 進捗状況：A・・・順調/B・・・おおむね順調/C・・・やや遅れている/D・・・遅れている/E・・・未実施

具体的な施策	内 容	担当課	取り組みの状況・課題等	進捗状況
観光資源の有効活用と魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 恵まれた温泉資源の有効活用</li> <li>• 豊かな自然を生かした登山やカヌー、サイクリングなどアウトドア活動を楽しむ観光の推進</li> <li>• 新たな観光資源の発掘と既存資源の磨き上げ</li> <li>• 観光キャンペーン、商談会等での誘客宣伝の推進</li> <li>• 農、工、商業など、地元企業との連携による多彩な観光事業の推進</li> <li>• スキー場等への統一ICカードの導入等による顧客データの収集、分析と、データに基づく戦略的な情報発信の実施</li> </ul>	観 光 課	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 高瀬渓谷振興協議会での活動や森林劇場を活かした温泉地の知名度向上と誘客拡大を図っている。</li> <li>• 登山やトレッキング、サイクリングなどアウトドア活動については、マップ作成、観光看板の設置を進め、特にサイクリングについては、市及び北アルプス地域の独自のマップを作成している。</li> <li>• 平成31年4月大町、白馬、小谷の三市村DMOとしてHAKUBA VALLEY TOURISMを設立。</li> </ul>	B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 道の駅等、公共的な観光施設の整備と、健全な管理運営による利用促進</li> </ul>	観 光 課	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 観光公衆トイレ及び観光施設については、年次計画により施設整備を進めている。令和元年度 霊松寺公衆トイレ完成。</li> </ul>	A
		八 坂 支 所	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 指定管理者制度による民間の能力、経営ノウハウを活用し利用者のサービス向上を目</li> </ul>	B

			指している。各施設の老朽化が進んでいるため、指定管理者と連携を図りながら計画的に施設整備を進めている。	
		美麻支所	・指定管理者と連携を密にして市民サービスの向上に努めるとともに、施設の計画的な修繕を行っている。	B
滞在型観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域連携によるDMO組織体制の構築と、市内観光関連事業者との連携強化</li> <li>・民・官の連携による国内外からの外貨の獲得と交流人口の拡大</li> <li>・通過型の観光から、滞在型観光への転換の促進</li> <li>・広域連携を含めた観光資源を結ぶ観光ルートの定着化</li> <li>・日程に合わせた周遊モデルプランの提案</li> <li>・国営アルプスあつみの公園を活用した誘客の促進</li> <li>・学習旅行誘致の促進</li> <li>・二次交通の整備強化</li> <li>・体験型の観光資源を含めた多様な観光スタイルの提案</li> </ul>	観光課	・冬のスキー客をターゲットとした大町、白馬、小谷の三市村DMOとしてHAKUBAVALLEY TOURISMが設立。滞在型観光に向けて、周遊バス「信濃大町ぐるりん号」では2コース運行を実施。(鷹狩山まで延長運行。)また、スマホによるまち歩きアプリ開発やSNS情報発信により、積極的に取り組んでいる。	B
外国人観光客の誘客強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関と連携したゴールデンルートなど他の人気都市を巡る観光ルートからの外国人観光客の誘導</li> <li>・東アジア、東南アジアをターゲットとする戦略的な誘客促進</li> <li>・外国人観光客の関心を喚起する新たな観光資源の発掘</li> <li>・観光施設や、個室を有する宿泊施設などの受入態勢の充実強化</li> </ul>	観光課	・東アジア、東南アジアをターゲットとした商談会への参加、WEB、SNSによるタイムリーな情報発信を展開し、また、貸切バス助成事業により団体客の誘客を図っている。	B

<p>山岳観光の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東山周辺地域観光整備計画に基づく誘客の促進・充実</li> <li>・高瀬渓谷の観光振興</li> <li>・自然豊かな環境を活用した山岳エコツーリズムの推進</li> <li>・山岳情報や文化・歴史、自然や生き物など山岳文化都市としての魅力を国内外へ発信</li> </ul>	<p>観 光 課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東山周辺地域観光整備計画に基づき年次計画で観光施設整備を進め、霊松寺公衆トイレ建設工事を実施。</li> <li>・高瀬渓谷については、高瀬渓谷振興協議会での観光誘客を図っているが、自然環境が厳しい高瀬渓谷であるため、年次計画通りには進まない状況もある。</li> </ul>	<p>B</p>
		<p>山岳博物館</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東山周辺の散策に活用していただくため「東山マップ」を作成し、登頂のみの目的ではなく、周辺の地質や歴史、植物や動物などの自然環境を紹介し、利用者の便宜を計っている。</li> <li>外国人の来館対応としては、受付でのインフォメーションのほか、英語、中国語、韓国語版の総合パンフレットを作製し配布している。展示での対応は、インバウンドを想定し英文による展示解説を大幅に増加している。ただし現状では、外国からの来館者はほぼ年間入場者の1%に留まり、目に見えた増加は見られない。</li> </ul>	<p>B</p>
<p>◎おもてなしの心で観光客を迎える魅力ある観光地づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の観光情報を市民へ提供し、観光に対する意識の高揚</li> <li>・観光客への積極的な声かけや、観光地の清掃活動、各種イベントへの参加などの取組み強化</li> <li>・観光客との交流の促進と受入態勢の整備</li> </ul>	<p>観 光 課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客へのおもてなしについては、大町市観光協会や観光関係団体と連携しながら取り組んでいる。</li> </ul>	<p>B</p>
<p>◎観光ボランティア（ガイド）の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光ボランティア（ガイド）の人材育成と会員確保の推進</li> <li>・信濃おおまち達人検定の合格者へ観光ボランティア（ガイド）登録の勧奨</li> </ul>	<p>観 光 課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大町市観光協会の事業（県補助金活用）として、ガイド研修を開催し、ガイドマニュアルを作成。</li> </ul>	<p>B</p>

【地域の芸術文化の創造】

進捗状況：A・・・順調／B・・・おおむね順調／C・・・やや遅れている／D・・・遅れている／E・・・未実施

具体的な施策	内 容	担当課	取り組みの状況・課題等	進捗状況
<p>◎アーティスト・イン・レジデンス事業の推進（再掲）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーティスト・イン・レジデンス、芸術祭等の開催や支援</li> <li>・芸術文化を通じた国内外との交流の促進</li> <li>・地域固有の芸術文化資源等の魅力発信</li> </ul>	<p>まちづくり交流課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信濃大町アーティスト・イン・レジデンス事業では、コーディネーターとして市内芸術団体が役割を担い、国内外からアーティストを招聘し、あさひAIRでの滞在制作を支援しながら、芸術文化振興を図るとともに、市民と作家の交流を深めながら、芸術文化都市としてのブランディングの土台としていく。</li> <li>・トリエンナーレとして開催する北アルプス国際芸術祭では、新たにビジュアルディレクターを迎え、より質の高い国内でも有数の芸術祭を目指している。国内外から質の高いアートが集結し、生活文化でもある地域の食を提供し、国内外への強い情報発信、地域経済への波及効果、交流人口・関係人口の増加、市民との協働の4つを狙いとし、持続可能な元気ある大町を目指し開催する。</li> </ul>	<p>B</p>

## ◆数値目標◆

目 標 項 目	基準値	目標値 (令和3年度)	担当課	R1 数値	課題等
観光客の年間消費額	121 億円	130 億円	観光課	115 億円	異常気象による長雨や台風災害、更に暖冬による雪不足など観光客の入込に影響があった。
観光ボランティア登録数（5年累計）	23 人	30 人	観光課	17 人	継続して登録者数を増やすよう関係団体等と協力していく。
外国人延宿泊数	30,911 人	40,000 人	観光課	38,111 人	HAKUBA VALLEY TOURISMU やインバウンド推進協議会の誘客宣伝の取組みなど継続していく。
アーティスト・イン・レジデンスによる来場者数（5年累計）	4,100 人	81,500 人	まちづくり交流課	68,571 人	芸術文化都市としてのブランディングを図るとともに市民と作家の交流促進をより深めていく
明日香荘など八坂地区4施設の利用者数	81,682 人	82,500 人	八坂支所	63,549 人	国内団体旅行の減少が進んでいるところに、3月より新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて利用者が減少となった。
道の駅ぽかぽかランド利用者数	96,710 人	97,000 人	美麻支所	73,136 人	毎日イベントなど新たな取り組みを行い業績不振からの脱却に向け取り組んでいる。

## 目標実現の条件

- ・国内景気の維持
- ・国や県における訪日外国人観光客の地方への誘客と個人旅行者への戦略の実施
- ・観光人材の育成への気運の高まり

## □市民意識調査□

調 査 項 目	基準値	目標値
観光の振興に満足していると思う市民の満足度	47.5%	60%

## ○関連する個別計画

大田市観光振興計画、大田市東山周辺地域観光整備計画、文化資源活用ビジョン、大田市過疎地域自立促進計画
--

## ◇施策に係る対象事業

実施計画名	事務事業No.	事業名（予算書）	担当課
信濃大町アーティスト・イン・レジデンス事業	121131	芸術文化振興事業	まちづくり交流課
北アルプス国際芸術祭推進事業	121131	芸術文化振興事業	まちづくり交流課
明日香荘管理運営費	121119	明日香荘管理運営費	八坂支所
八坂観光施設管理費	171310	八坂観光施設管理費	八坂支所
ぼかぼかランド美麻管理運営事業	1211215	ぼかぼかランド美麻管理運営費	美麻支所
大田市アミューズメントハウス施設修繕事業	17135	仁科三湖振興事業	観光課
大田市アミューズメントハウス管理事業	17135	仁科三湖振興事業	観光課
東山周辺地域観光整備事業	17138	山岳観光推進事業	観光課
観光プロモーション事業	17132	観光誘客宣伝事業	観光課
インバウンド推進事業	17137	インバウンド推進事業	観光課
大田市観光協会負担金事業	17139	着地観光充実事業	観光課
観光地二次交通運行事業	17134	2次交通対策事業	観光課
山岳博物館教育事業	110613	山岳博物館教育普及事業	山岳博物館

※実施計画に該当しない事務事業についても、本施策に該当していれば記入してください。（その場合、実施計画名欄は空欄とし、事務事業No.及び事業名（予算書）欄へ記入してください。）

◆4 移住・定住促進策等の充実強化◆

全国的に多くの地方都市で人口減少が進んでおり、総合的に地方の活力は衰退していると言われていています。本市においても、人口の減少が続いており、活力の再生など地域の活性化のためには、ふるさとに対する誇りや愛着心の向上が不可欠です。定住促進ビジョンに沿って、移住・定住を促進するために、また、地方都市として生き残りを賭けるうえでも、本市の魅力的な地域資源をブランドイメージへと高めることにより、特色ある信濃大町ブランドの構築を戦略的に展開し、ブランド力の強化による全国的な認知と魅力の向上を図ります。

【定住促進ビジョンの推進】

進捗状況：A・・・順調／B・・・おおむね順調／C・・・やや遅れている／D・・・遅れている／E・・・未実施

具体的な施策	内 容	担当課	取り組みの状況・課題等	進捗状況
◎移住の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民との協働組織である定住促進協働会議による定住促進事業の推進</li> <li>・大都市向けの移住セミナーの開催やPR事業による、移住先としての市の認知度の向上</li> <li>・移住者の心を惹きつけ、住んでみたくなる魅力の向上と発信</li> <li>・「山好き」「美味しい水」など地域資源の魅力に特化したPR事業の推進</li> <li>・市民の定住促進の意識高揚を図ることによる市の魅力の発信</li> <li>・市の暮らしを知る魅力体験ツアーの開催による具体的な移住を検討できる機会の充実</li> <li>・移住情報専用サイトによる移住情報の一元的な発信</li> <li>・首都圏在住の市出身の若者を対象としたイベント等の開催によるUターンの促進</li> <li>・定住促進アドバイザーによる移住相談の充実</li> <li>・移住後の暮らしの充実のための移住者交流会の開催</li> <li>・ターゲットとする若年層・ファミリー層と地域を活性化する中高年齢層の移住促進</li> <li>・北アルプス広域の他町村との連携による移住促進</li> </ul>	まちづくり交流課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定住促進協働会議による移住・定住促進の取組みとして、首都圏での移住セミナー、相談会等計16回開催。魅力体験ツアー4回。参加者計352名、相談件数555件。うち51世帯、70名が移住された。</li> <li>・情報発信は、ふるさと回帰支援センターへのブース出展のほか、全国版移住情報誌への広告記事の掲載や、市移住情報ウェブサイトでの移住情報発信に力を入れている。</li> <li>・全国的に移住促進事業が行われるようになり、より大町市の特徴を活かしたPR方法や施策の検討が必要である。</li> </ul>	A



<p>定住の奨励と拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な住環境の提供などによる住み続けたいと思えるまちづくりの推進</li> <li>・市民の定住を促進するための様々な節目での助成等を行う生活応援事業の推進</li> <li>・人口の流出抑制やUターンの促進を図る3世代同居・近居世帯の定住促進</li> <li>・地域商品券発行による定住意識の醸成</li> <li>・県有料道路割引通行券の購入助成による通勤圏拡大を図る定住の促進</li> </ul>	<p>まちづくり交流課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期定住促進ビジョンに基づく定住促進奨励事業の実施。</li> <li>商品券事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>Uターン生活応援 17件</li> <li>Iターン生活応援 47件</li> <li>新婚生活応援 46件</li> </ul>                     3,300千円</li> <li>マイホーム取得助成事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>新築 49件、購入 28件</li> </ul>                     21,052千円</li> <li>・有料道路利用者負担軽減 <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者 98名、8,350枚</li> </ul> </li> <li>・空き家改修補助金 <ul style="list-style-type: none"> <li>利用件数 8件 2,400千円</li> </ul> </li> </ul>	<p>A</p>
<p>空家等の有効活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家バンクの充実</li> <li>・住宅情報の一元化と情報誌等による定住希望者への情報の発信</li> <li>・移住者が空き家に入居する際の住宅改修費の助成</li> <li>・空き家、空き店舗の見学会などによるマッチングの促進</li> <li>・地域住民による空き家活用とまちづくりを考える機会を提供する住民活動へのサポート</li> </ul>	<p>まちづくり交流課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家バンク登録物件数累計 45件、利用登録件数 87件、成約件数累計 34件</li> <li>・信州大学、東京大学との共同研究事業（空き家の学校の開催、信濃大町まち守舎設立）</li> <li>・空き家バンク制度の見直しを含めた空き家活用支援体制の構築</li> </ul>	<p>B</p>

【過疎地域における移住・定住促進】

進捗状況：A・・・順調／B・・・おおむね順調／C・・・やや遅れている／D・・・遅れている／E・・・未実施

具体的な施策	内 容	担当課	取り組みの状況・課題等	進捗状況
<p>◎過疎地域における移住・定住促進策の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定住促進住宅の整備や過疎地域定住促進奨励金などの支援の充実</li> <li>・過疎地域における創業支援</li> </ul>	<p>八 坂 支 所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八坂地区内の空き家に入居した1世帯に定住促進奨励金を交付した。</li> <li>・令和2年度の竣工を目指し、栃沢地区に定住促進住宅の建設工事を進めている。</li> </ul>	<p>B</p>

		美麻支所	・過疎地域定住促進奨励金、過疎地域起業 者育成支援事業補助金とも交付対象者は なかった。	B
--	--	------	--	---

【都市との交流の促進】

進捗状況：A・・・順調／B・・・おおむね順調／C・・・やや遅れている／D・・・遅れている／E・・・未実施

具体的な施策	内 容	担当課	取り組みの状況・課題等	進捗状況
都市と農村の交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滞在型市民農園を活用した地域間交流の推進</li> <li>・都市との交流施設への転換など滞在型市民農園の多面的な活用方法の検討</li> </ul>	美麻支所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市住民の利用者が市民農園に長期滞在し、地域の行事等に参加することにより地域住民との交流が行われている。一方で施設の老朽化や競合する施設の増加に伴う利用者獲得が課題。</li> </ul>	B
◎地区住民と市民農園利用者との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民農園の野菜づくりにおける地区住民の農業指導や、利用者の交流による、地域活動等への参加意識の醸成</li> </ul>	美麻支所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シルバー人材センター会員による農作業指導を実施している。会員の高齢化が課題となっている。地域との交流は、公民館行事等への参加や利用者中心のサークル活動が行われている。</li> </ul>	B

【信濃大町ブランドの戦略的な展開】

進捗状況：A・・・順調／B・・・おおむね順調／C・・・やや遅れている／D・・・遅れている／E・・・未実施

具体的な施策	内 容	担当課	取り組みの状況・課題等	進捗状況
◎信濃大町ブランド戦略に基づくブランド力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信濃大町ブランド戦略に位置付けられた施策の着実な実施による認知度と魅力度の向上</li> <li>・「信濃大町」の呼称の統一的使用によるブランド力の強化</li> <li>・市民や市内事業者等への信濃大町ブランド戦略の浸透と、信濃大町に対する誇りや愛着心の醸成</li> <li>・ブランド専用 Web ページの開設による情報の受発信の活発化</li> <li>・観光大使など市出身やゆかりの著名人の協力による情報発信の強化</li> </ul>	商工労政課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランド啓発事業として水に対するシビックプライドの醸成を目的に「信濃大町水の恵みに感謝を！！プロジェクト」を実施。既存事業の水道水源感謝祭等で、のぼり旗の掲出や、啓発用コースターを作成し、啓発を図った。</li> <li>・信濃大町ブランド公式サイト「しなののおまち水と人」の記事内容の充実を図り、ブランド力の強化を図った。</li> <li>・首都圏在住者を中心とした信濃大町サポ</li> </ul>	A

	<ul style="list-style-type: none"> <li>信濃大町の認知度の向上のため、アンテナショップ等を活用した首都圏への情報発信</li> </ul>		<p>ーターを随時募集、観光・物販イベント等でのアシスタント、情報の拡散等認知度向上を図った。</p>	
		観光課	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光大使による情報発信については、総合パンフレット等を活用して情報発信の強化を図っている。</li> </ul>	B
<p>◎信濃大町水ブランド戦略の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源の「水」を最大限に活用した水ブランド戦略の積極的推進</li> <li>市民の地域への誇りや愛着を醸成するための水を知る機会の提供と全国に向けた情報発信</li> <li>「水のまち」をイメージできるような親水スポットの整備</li> </ul>	商工労政課	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内飲料水事業者の販路を活用した湧水地「信濃大町」認知度向上。</li> <li>信濃大町湧水のモンドセレクション2019 最高金賞等、国際評価を得る。                      &lt;H28 年度に駅前親水施設整備事業基本構想を策定後、H29 年度には意見交換会を開催（全 7 回開催）。現行の基本構想案では水ブランド向上への効果が得難く、発展性に乏しい、「水のまち」を象徴し、中心市街地の活性化に資する、より効果的な計画を慎重に練っていく必要性を示唆、基本構想策定を延期する方針に決定。&gt;これを受けて、中心市街地の歴史的建造物などを拠点として、男清水・女清水の水飲み場など、水を巡りながら回遊できるモデルコース等を設け、モニターツアーを実施。</li> </ul>	B
		建設課	<ul style="list-style-type: none"> <li>「水のまち」をイメージする既存の親水空間の保全や、親水スポット等の整備については、魅力ある街並み景観や住環境の向上に向け、「水ブランド戦略」において、関係各課が連携した取り組みを行っていく必要がある。</li> </ul>	B

		上下水道課	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペットボトルウォーター「信濃大町湧水」を作成し、モンドセレクション最高金賞を3年連続受賞した。今後も安全でおいしい水道水の広報を行う。</li> </ul>	A
◎地域資源や特産品のブランド化	<ul style="list-style-type: none"> <li>个性的で魅力ある新しい特産品の開発支援</li> <li>他地域との差別化が図られる、食品などの特産品のイメージの向上</li> <li>地域資源、特産品のデザインや物語性の構築</li> <li>地元産の発酵食品や日本酒、ワイン等の製造と普及</li> </ul>	商工労政課	<ul style="list-style-type: none"> <li>特産品開発セミナー開催。ワークショップ（年間4回）において新商品を開発。テストマーケティングとして、2月11日のアメ市「信濃大町おもてなしマルシェ」にて販売。</li> <li>食の情報誌「料理王国」とタイアップし、「信濃大町食材」の魅力を発信することにより、ブランド力向上を図った。</li> </ul>	A
		農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地のイベント等で、北アルプス山麓ブランドの当市の認定品を紹介し、販売を行っている。</li> <li>大北全体で100品を達成し、次のステップに取り組む予定。ワインについては、「北アルプス・安曇野ワインバレー特区」を活用して免許を取得したワイナリーが完成し、醸造を行った。</li> </ul>	B
おおまびよんの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファン感謝デー等の開催による市民との交流や愛着の醸成</li> <li>全国で開催される各種イベントへの積極的な参加</li> </ul>	商工労政課	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種イベントへの参加やSNSの活用等により、大町市の魅力の情報発信を行った。ゆるキャラグランプリ（長野市開催）において、ご当地キャラ部門第11位となり、過去最高順位を獲得。</li> </ul>	B

## ◆数値目標◆

目 標 項 目	基準値	目標値 (令和3年度)	担当課	R1 数値	課題等
マイホーム取得助成交付件数 (5年累計)	85件	425件	まちづくり交流課	237件	利用者のうち、24件(約31%)が転入者であり、一定の効果は出ている。制度の周知に努める。
市人口の社会動態数	△166人	△42人	まちづくり交流課	△194	仕事や住居等の情報提供に力を入れ、移住促進、転出抑制に努めている。
移住相談による移住者数(5年累計)	25世帯	100世帯	まちづくり交流課	110世帯	過去最高の移住世帯数となる。
八坂・美麻地区の定住促進住宅 整備棟数(5年累計)	12棟	14棟	八坂支所 美麻支所	17棟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定住人口の増加と集落機能の強化に一定の効果がある。新たな住宅を建築するだけでなく、空き家の利活用等の検討も進める必要がある。</li> <li>・移住希望者のニーズの把握と、移住された方々の意見を取り入れるとともに、受け入れ希望地区の住民との協議を行い、整備を進めている。</li> </ul>
市民農園利用者数	28,522人	30,000人	美麻支所	24,202人	お試し用のラウベを活用し、利用促進を図る。
長野県内の認知度順位	14位	7位	商工労政課	13位	更なる情報発信が必要
長野県内の魅力度順位	12位	6位	商工労政課	9位	更なる情報発信が必要

## □市民意識調査□

調 査 項 目	基準値	目標値
効果のあがる移住対策が推進されていると思う市民の割合	41.6%	60%
地域ブランド力が向上していると思う市民の割合	9.4%	50%

## ○関連する個別計画

大町市定住促進ビジョン、大町市過疎地域自立促進計画、信濃大町ブランド戦略
--------------------------------------

## ◇施策に係る対象事業

実施計画名	事務事業No.	事業名（予算書）	担当課
定住促進事業	12137	定住促進事業	まちづくり交流課
八坂地域振興事業	121115	八坂地域振興事業	八坂支所
八坂定住促進事業	121118	八坂定住促進事業	八坂支所
美麻定住促進事業	1211212	美麻定住促進事業	美麻支所
市民農園管理事業	16152	ふたえ市民農園管理費	美麻支所
市民農園管理事業	16153	おおしお市民農園管理費	美麻支所
ブランド振興事業	17115	ブランド振興事業	商工労政課

※実施計画に該当しない事務事業についても、本施策に該当していれば記入してください。（その場合、実施計画名欄は空欄とし、事務事業No.及び事業名（予算書）欄へ記入してください。）